

えひめ地域づくりアワード・ユース2017

えひめ地域政策研究センター

研究員 河田 晋作

(公財)えひめ地域政策研究センターは、「えひめ地域づくり研究会」との共催で、高校生等の地域づくりに関する実践活動を表彰する『えひめ地域づくりアワード・ユース』を創設しました。次世代の地域づくりの担い手となる若い世代の活動を支援し、持続可能な地域活性化を促進することを目的としています。

第1回となる今回は、県内の高等学校・中等教育学校・高等専門学校19校から21グループの応募がありました。どの取り組みも地域とのつながりを大切に、高校生らしく若さあふれるすばらしい活動でした。高校生への地域づくりへの関心の高さと、柔軟な発想力に驚かされました。審査の結果は次の通りです。

最優秀賞

新居浜南高等学校「ユネスコ部」

優秀賞

今治西高等学校「海外研究部」

三崎高等学校「三崎たいせつ隊」

審査員特別賞

上浮穴高校「上高クロモジ研究グループ」、西条高校「マーケティング選択生」、松山北高校「生徒会」、伯方高校「サイクリングイベント実行委員

会」、松山工業高校「繊維科防火・防災研究グループ」、野村高校「農業クラブ」、伊予農業高校「生活科学科食物班」

平成30年1月20日に内子自治センターで表彰式が行われ、最優秀賞・優秀賞を受賞した3校には、活動発表も行っていました。当日は、多くの方が会場に集まり、温かい雰囲気での表彰式となりました。表彰にあたっては、愛媛県、愛媛県教育委員会、報道機関各社の御後援を頂きました。また、主催者による表彰に加え、若者の地域づくり活動に御理解を頂いた企業・団体から御協賛を頂き、副賞として若者の今後の活動の糧となる貴重な賞品等のご提供を賜りま

した。御協力いただきました皆様に感謝いたします。



トロフィーと副賞(企業協賛品等)



表彰(森田浩治 センター理事長)



活動発表の様子



開会挨拶(山本司 センター長)



初代最優秀の栄冠に輝いた新居浜南高校ユネスコ部

あかがねプロジェクト2017 「ふるさと新居浜を未来へつなぐ」

愛媛県立新居浜南高等学校 ユネスコ部

活動の目的

四国屈指の工業都市・新居浜の基礎づくりに大きく貢献したのが別子銅山です。しかし、昭和48年に閉山後、人口減少、経済の衰退など、多くの課題を抱えています。



そこで、私たちは先人の偉業や体験の記憶、近代化産業遺産の保存・活用を産官学が連携・協働し、高校生の視点で地域活性化を目指す「あかがねプロジェクト2017」を立ち上げました。

その活動を通して、地域への誇りや愛着である「シビックプライド」を高め、将来の地域リーダーの育成を図ることが、ふるさと新居浜を持続発展可能な地域づくりにする大きな鍵になると考えました。

ユネスコ部が活動の核となり、生徒会活動、学校行事、教育課程など学校全体を巻き込んだ実践としました。

活動の概要

はじめに、別子銅山への登山現地調査、オーラルヒストリー活動（別子銅山稼働時の関係者からの聴き取り調査）などを行い、自らの足で学びを積み重ねる「歴史・文化の研究実践」を行いました。

次に、行政、大学、NPO等が主催して開催される研修会や学習会への参画、自らが主催し、同様な活動を行っている他地域、あるいは他団体などと協働した「魅力発見の研修実践」を行いました。そして、研究および研修実践を通して身に付けた知識や能力を知恵として活かし、地域の魅力を情報発信するイベントやワークショップを企画・運営する「魅力発信の活動実践」を行いました。

それらの実践によって得た課題を収集・蓄積・整理・分析しました。産官学で協議、協働し、高校生の視点で課題解決へ向けた更なる活動を積み重ねるこ



別子銅山現地研修会(松山南・西条・新居浜南高)

とで、「地域共創への活動実践」へと結び付けて行きました。

活動の成果と今後の展望

今回の活動は、生徒の「シビックプライド」の高まりに加え、人間形成やキャリア教育への充実にも大きな成果を得ました。

また、若者の活動する姿を見て、活躍のチャンスが創出されるなど、地域が変わりました。

新年度、本校では「地域共創系列」が本格始動します。目指すのは、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献する立派な大人と持続発展可能な新居浜づくりです。その為のカリキュラムの開発、実施の具現化が課題となっています。

その課題解決のため、得られた貴重な成果を基盤に、よりいっそう産官学の絆を強く結び、若い世代による地域づくりを推進して行きます。



新居浜市観光振興計画策定会議

「フェアトレードタウン今治運動」を通しての町づくり

愛媛県立今治西高等学校 海外研究部

1 はじまりは教科書

海外研究部は、平成26年度にフェアトレード推進活動を始めました、英語の教科書に、児童労働とその解決方法としてのフェアトレードが紹介されており、それを読んだ部員が主な活動として取り上げたいと提案したからです。私たちは、開発途上国の持続可能な開発に貢献し、児童労働に携わる子供達の生活環境と教育の向上を目指すことにしました。



2 フェアトレードタウン運動

私たちは、スーパー店頭でのフェアトレード商品の販売促進に取り組みました。一定の売り上げを得て、達成感も味わいながら、数百人にしかフェアトレードを知ってもらえなかったことで、自分達の活動方法に疑問に思うようになりました。

そこで、注目したのが「フェアトレードタウン」という制度です。これは、町ぐるみでフェアトレードを推進する取組で、「日本全国に広げるのは無理でも、

自分たちの足で稼いで、今治市内にならフェアトレードを普及できる。」と信じて活動に取り組みました。

3 町づくりは人作り

「フェアトレード・タウン運動」は町づくりを通して、人作りに貢献しています。タウン運動では、市民との関わりが活動の中心となります。フェアトレードの今治タオルを製造しているタオルメーカーを紹介したり、地



商店街のヒアリング調査



惣菜の試作

元スーパーと協力してローストカカオを使ったレシピを考え、フェアトレード惣菜を発売したり、様々な人をつないで、協力の輪を広げることが、フェアトレードの普及につながってきています。

4 まとめ

フェアトレードタウン運動は、フェアトレードという手段を利用して町づくりをする運動です。人と人がつながり、高い志を共有することが今治市民にシビックプライドを持たせます。また、カカオ豆の産地を知ること、世界の食糧や貧困の問題を知るグローバルな食育として、子ども達の世界観を育てます。

平成28年度に実施した今治市議会議員へのアンケートで、24名中19名が「議員として（フェアトレードについて）知る必要がある」と答えました。これは、地域の将来を思う、責任ある大人の言葉として私たちは重く受け止めました。地域の人々と歩調を合わせながら、世界に誇れる「町づくり」に係わっていきたいと考えます。

- | | |
|-----|------------------------|
| 基準1 | 推進組織の設立と支持層の拡大 |
| 基準2 | 運動の展開と市民の啓発 |
| 基準3 | 地域社会への浸透 |
| 基準4 | 地域活性化への貢献 |
| 基準5 | 地域の店によるフェアトレード産品の幅広い提供 |
| 基準6 | 自治体によるフェアトレードの支持と普及 |

フェアトレードタウン条件

ふるさとのバトン

愛媛県立三崎高等学校 三崎たいせつ隊

1 私たちの1歩

私たちの住む伊方町は、四国の最西端に位置し、人口1万人弱の小さな町である。私たちはこれまで、「ない」ことが当たり前だと思っていた。それは変えようがなく、将来は都会に出て行くことが当たり前だと思っていた。そのような私たちの考え方は高校入学後に「三崎おこし」という地域活性化に取り組む授業に出会ってから大きく変わった。ふるさとを愛し、守りたいと思うようになった。そして私たちは、この愛すべき小さな町の未来が大きく変わること強く願い、行動してきた。



2 漂着物アートフェスティバル

昨年度、海岸清掃のボランティアを行った際、あまりの漂着ごみの多さにショックを受けた。その時に拾ったゴミを利用して地域の方の指導を受けながら、「登龍門」というアート作品を作った。今年度はこのゴミを素材にもっと多

くの人が参加し、楽しめるイベントとして「漂着物アートフェスティバル」を開催した。

材料集め

を兼ねて海岸清掃に出かけたり、会場としてお借りした廃校となった中学校の清掃活動を行ったりして準備を進め、8月11日のイベント当日を迎えた。

1日かけてゴミを使ったアートイベントである、「ゴミプラント作り」と「ゴミアートコンテスト」、スポーツイベントの「ゴミリンピック」を行い、2歳のお子様から社会人の方まで50名程度の方に参加していただいた。

これらの行事と平行して、漂着物であるカキ養殖のパイプを使ってメインオブジェを制作した。高さ約3メートルの支柱に1日かけてパイプを貼り付けていった。地域の方に協力していただき、19時30分には点灯式が行われた。点灯に先立ち、私たちがこのイベント、地域に対する思いを話させていただいた。カウントダウンの後、照明が付けられたときには大きな歓声が上がった。地域の方からも「高校生が町の中で活動してくれると賑やかでいい」「ぜひ、来年もやってくだ



登龍門

さい」と温かいお言葉をいただいた。

3 バトンを未来へ

私たちはもうすぐ卒業し、一時的にふるさとを離れるけれど、それぞれの場所でふるさとを思い、ふるさとのために行動したい。そして、後輩にもこの思いをつなげていきたい。私たちが、たくさん先輩方から、その思いとふるさとを受け継いだように。これから、自分たちのふるさとの未来を作るのは自分たちだという気持ちを持って活動していきたい。



漂流物アートメインオブジェ